



▲第2産婦人科部長 森川 重彦

常位胎盤早期剥離について

周産期医療とは

妊娠中から分娩、産褥期の母体治療、また新生児期の赤ちゃんの治療をあわせて周産期医療といえます。日本の周産期医療は非常に進歩してきており、例えば妊産婦死亡率は2011年度の統計で分娩10万あたり3.8%と世界でも上位のレベルで50年前から比べると30分の1ほどになっています。しかしまだ年間40〜60人ほどの妊婦の方が亡くなっています。出産前後の出血多量によるものや脳出血などの脳血管障害、羊水の成分や血液の塊(血栓)が肺などに詰まってしまう塞栓症によるものなどが主な原因です。

妊娠、分娩は安全というわけではなく予測の困難な変化が突然おこりうる危険を持っているといえます。最近では晩婚化の傾向もあり高齢での妊娠、分娩も増えリスクの高い妊娠が増加しています。

常位胎盤早期剥離とは

妊娠中の緊急疾患の1つに常位胎盤早期剥離があります。胎盤は通常胎児が生まれた後に子宮から剥がれますが、胎児がまだ子宮内にいる時に剥がれてしまう病気で、この状態になると、胎盤の剥がれた部分から出血がおこり母体は血液を固まらせる因子が減少する状態(DIC)になって出血がさらに増加して危険な状態に陥ることがあります。

日本産婦人科医学会の報告では母体死亡の原因の43%を占めています。また剥がれた部分の胎盤は機能しないため胎児も危険な状態になり、胎内死亡に至ったり神経学的後遺症を残すことがあります。産科医療補償制度原因分析委員会の報告では、児の脳性麻痺発生原因の約30%を占めています。

治療と対策

治療はまず、妊娠を終了させることとなります。胎児が生存していれば緊急に帝王切開、胎内死亡になつてくる時には状況に応じて手術を回避する試みもなされていますが、いずれにせよ輸血やDICに対する治療など集学的な治療が必要になります。

これだけ重篤なことになる疾患ですが、残念ながら原因は判っていません。妊娠中に血圧の高くなる妊娠高血圧症候群の方などにリスクがあるとされますが、特に異常を認めていなかった方にも突然おこります。したがって、現在のところ予防法はなく、母児の予後改善のためには、発症後いかに早く治療できるかにかかっているといえます。そのためには、妊娠中の方にこの疾患のことを知っていただき、異常があればすぐ医療機関を受診していただくことが重要です。典型的な症状は出血と下腹痛、胎動の減少などです。このような症状を感じたら病院中の施設に連絡してください。妊娠中は状態が急に変化することがあることを忘れないでいてほしいと思います。

お知らせ



助産師・看護師募集

■嘱託職員

勤務 月々金曜日午前8時30分〜午後5時
対象 助産師、看護師免許取得者

月給 27万円(一時金なし)

■臨時職員

勤務 月々金曜日午前8時30分〜午後4時30分(時間は応相談)

対象 助産師、看護師免許取得者
時給 1,500円(一時金なし)

人員 各3人程度

勤務開始日 4月1日(火)

申込み 3月7日(金)(必着)までに、臨時・嘱託いずれかを記入した履歴書(写真貼付)、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課(〒485-8520住所)

不要)

※後日面接あり